

あゆみ

氷川学園広報部

〒869-4602 八代郡氷川町宮原1116

TEL(0965)62-4081

FAX(0965)62-4080

Mail hikawagakuen@seiryu-hikawa.com

HP <https://hikawagakuen.com/>

氷川学園



「平和」であるということ

桜の花が舞う中で、令和四年度がスタートしました。四一年目である開園記念日の四月一日には、法人全体での辞令交付式が開催されました。一日付での新規採用は、氷川学園で一名、児童発達支援事業所風楽で一名の計二名の方がですが、昨年途中で採用された方が法人全体で十一名と、併せて十三名の方と、法人内異動等で二名、法人全体の合計で十五名の方々へ、改めての辞令交付が行われました。

人材の確保が喫緊の課題である世情の中で、多くの人が仲間となつて下さったことに、心より感謝するものです。この縁が確固たる絆になつていくことを期待します。

現時点で、法人全体五事業所での職員数が六十二名となりました。が、このコロナ禍の中で、他事業所の人と顔を会わせることが難しくなり、同じ法人の仲間でありながら、互いを知らない人たちが出てきています。ちよつと、寂しいことです。辞令交付式でも、自己紹介をしていただきましたが、マスク着用には至らず、なかなか互いの顔を覚えるには至らず、残念なことです。

この二年余りの間に入職された方々は、利用者さんのご家族とも充分に会えずじまい、みんな揃つてのお花見も、法人挙げてのマルシェも、家族会との合同研修会などの大きな行事も中止となり、大勢での賑やか

な楽しい時間を未体験という残念な状況です。一時も早くコロナが収束して、あの楽しい時間をみんなで見ることが出来る日を心待ちにしています。

コロナ禍に限らず、私たちの生活が当たり前のようになり立っているのは、この社会が「平和」であるということが大前提であることは言うまでもないことです。皆様にこの便りが届くころには、ロシアのウクライナへの侵攻が停戦になつていて、心を、心から願うばかりです。連日、流れてくる映像から感じる悲慘さに、心が折れ、今この同じ時代に起きている出来事と受け止めるには辛すぎる惨状です。世界中の誰一人として、

戦争を望む者はいない、人の命を軽んじる人はいない、はずです。なのに、何故、こういったことが繰り返されるのか、人間とは、どこまで愚かなのか、歴史に学ぶということがどうして出来ないものなのかと、悲しくな

ります。ウクライナの多くの人が、避難していかれる姿を映像で見ると、ウクライナにも、障がいのある人、病を抱えた人、沢山いらつしやるはずで、私たちと同じような障がいの有る人を支援している仕事に就いている人もいらつしやるでしょう。そういった人たちが、今どういう状況下にあるのか、避難するということが可能なのか、考えるだけで気持ちが悪くなる気がします。もしも、これが、我が身に起きていることだとしたら、私は、私の立場で、今、氷川学園でお願いしている人たち

と一緒にどこにどう避難すればいいのか？そもそも出来るのか？頭が真っ白になる思いです。六年前の熊本地震の際に、僅か一晚だけ、入所の五十名の利用者さんを連れて、町内の施設の敷地等をお借りして避難したことがありました。あの時は、多くの職員が一緒にいてくれて一晩を過ごさることが出来て心強かつたことや、たつた一晩の長かつたことが思い出されます。

桜の樹の下で

様々な複雑な思いをすする中、この方が、「中村哲」さんという方です。言葉を発表されたらどうかと思う人がいます。多くの人が周知しようが、「中村哲」さんという方です。中村哲さんは、一九四六年生まれの福岡出身の医師です。一九七八年にパキスタンに初入国され、ペシヤワール会を発足、ハンセン病患者の診療に当たられます。その後、内戦によるアフガン難民のための診療所を開設されています。二〇〇〇年に、アフガンで大干ばつが発生し、中村医師は灌漑事業を決意し、井戸掘りを開始、用水路を建設し、干ばつで荒地となった場所を緑の大地に変えていかれたことは有名な話です。二〇〇一年、アメリカ軍がアフガン

スタンを空爆し、多くのNPO団体がアフガンスタンを離れる中、ペシヤワール会は六億円の寄付を集め、食料配布を行っています。この時、中村医師は国会の参考人として呼ばれ、意見を述べられています。「罪のない者を巻き添えにして政治目的を達する

のがテロリズムと言うなら、報復爆撃も同じレベルの蛮行である。」と二〇〇三年にはアジアのノーベル賞と呼ばれる「マグサイサイ賞」を受賞されています。その後も精力的に医療に留まらない数々の支援を展開されてきました。しかし、二〇一九年二月、中村医師らが作業現場へ向かう車が銃撃され命を落とされました。今年に入り一月二八日に、全国知的障害福祉関係職員研究大会（京都大会）が完全オンライン形式で開催され、参加しました。その中で、歌手の加藤登紀子氏による記念講演と「うた」がありました。内容は、生前の中村医師との親交の中で大切にされてきた言葉を自身の人生に重ねながら紹介されました。そこで紹介された加藤登紀子氏による著書「哲さんの声が聞こえる」中村哲医師が見たアフガンの光」を早速に読ませて頂きました。その中で印象に残る言葉です。生きるための一〇の言葉のひとつとして、「正義・不正義とは、明確な二分法で分けられるものではない。敢えて『変わらぬ正義』と呼べるものがあるとすれば、それは弱いものを助け、命を尊重することである。」と記されています。

まさに、変わらぬ正義とは命を尊重することに尽きると、同感します。今、障がい福祉が成り立ち、障がいの有る人の命・尊厳が守られるのは、「平和」であることが大前提であること、その有難みを痛感しています。

支援現場の窓



◇今号の3面記事は、「支援現場の窓」と題しまして、支援の現場にスポットを当てて実践している支援を掲載しています。

今号では、「認知症の方への支援」について、お伝えしていきたいと思えます。

障がい者支援施設「水川学園」として、昨年40周年を迎え、利用者様の（入所40名・居宅35名）全体平均年齢は53歳です。入所棟はユニット化の施設になり、高齢棟・自閉棟に分かれています。高齢棟側の平均年齢は68歳であり、高齢化が進む中で、もつとも身近といえる症状が、「認知症」です。

まず、「認知症」とは？
成人になってから脳の神経細胞の変化によって起こる、認知機能の障害。正常に発達した知能が不可逆（一定状態に戻る）ことができず、的に低下した状態のこと。

※認知症は症状の名称であり、認知症を引き起こす何らかの疾病が背景にあり、疾病により症状が異なる。

【代表的な認知症の原因疾患】

- ・アルツハイマー型認知症
- ・レビー小体型認知症
- ・レビー小体という物質が脳に付着

するために生じると考えられている。初期から鮮明な幻視を見る。症状の日内変動があるのが特徴。

・脳血管性認知症
脳梗塞や脳出血などの脳血管性の疾患により、脳の一部が壊死することによって起こる。

・前頭側頭型認知症
前頭葉と側頭葉だけが委縮する。初期の認知症に多い。抑制がきかなくなる。身勝手なふるまいをするなど反社会的行動が特徴。

他にも数種類、原因疾患があります。今回は「アルツハイマー型認知症」に焦点をあてお伝えしていきます。

水川学園にも、アルツハイマー型認知症と診断された、Kさんという方がいらつしやいます。診断を受けてから、約2年で、歩行困難な状態になるまで進行されました。別の疾患もあり、症状は悪化し、入退院を繰り返す程でした。退院が決まり、ご本人への支援の見直しが必要になり、病院での様子や支援方法の検討を行い、皆が初めての事で、探り探り支援していく中で、ある本に出会いました。

『家族のためのユマニチュード』
優しい認知症ケア

●ユマニチュードとは？
フランスの体育学の専門家イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッチが考案したケアの技法です。二人は医療や介護の専門職員の腰痛を予防するために、フランス政府の依頼を受け、この分野での仕事を始めま

した。それだけにとどまらず、病院や介護施設で起きているケアが困難な状況の解決に40年間取り組み続け、「なぜこのときはケアがうまくいかなくなったのか」、「なぜ今回はうまくいったのか」思索を巡らせながらケアの技術を開発。そして、ケアの現場から生まれた技術をもとに、ユマニチュードの哲学が誕生。ユマニチュードとは「人間らしさを取り戻す」という意味のフランス語の造語です。介護で大切なのは、「相手と良い関係を結ぶ」「その人が持っている力を奪わない」こと。人は人間特有の4つの行動科学的コミュニケーションを通じて相手に伝えていきます。「あなたのことを大切に思っています」ということを、介護を受ける方が理解できるように伝えるために、ユマニチュードでは、ケアをするときにはいつも、4つの柱「見る」「話す」「触れる」「立つ」を用いて行います。とくに目新しいことにはないように思えますが、介護をする支援者が「見て、話して、触れる」とき、それは「自分がやりたことをするために」行っていることがほとんどです。Kさんへの対応時も優しさを伝える技術として、4つの柱を頭に入れて、実際の支援にあたりました。

まず、目は、白内障を患っておられ、ほとんど見えない状態です。季節や食事等、目で楽しむ事が難しい状態だったので、食事のメニューやお天気、季節の花等、伝えられる事は言葉で伝えました。返事が返ってくる事の

【支援現場の窓】

ほうが少なかったのが事実です。耳は、聞こえ難い様子があり、声のトーンや話すスピードに変化をつけました。高い声が苦手なようで、少しトーンを下げ、ゆっくりはつきり話すと、返事がすぐに返ってきて、受け入れも良い様子でした。

身体へ触れる事に対しては、抵抗はなかったのですが、触れ方・力加減等、注意が必要な点も多くなりました。

立つ事については、移動は椅子を使用していましたが、移乗や排泄、更衣の際は協力動作があつたので数分ずつですが、毎日続けていました。

できるだけ、ご本人の力を奪わないよう、できることを少しでも長く続けられるようにしました。又、今までの生活歴の中で、経験を積んでこられたこと、歯磨きの時の手の動きや、食事を嚙む（咀嚼）といった行動は、しっかりと出来られていました。ただ、年齢や病状と共にできなくなる

ことの方が多くなるのが現実です。それでも、たまに発語される「ありがとう」の言葉や表情が笑顔になる事で救われ、介護職はやつぱり良いなと実感します。

高齢化が進み、2025年には5人に1人とされる認知症。知的障がいがあり、診断が難しい中での支援は、試行錯誤です。だからこそ、知識を身に付け、情報を得て、上手くいった支援を皆で共有していけたらと思います。興味・関心の有る方は、ぜひ、ご一読をしてみてください。

（支援員 中島 瑞穂）

氷川からの 春だより



ホットケーキ完成!!

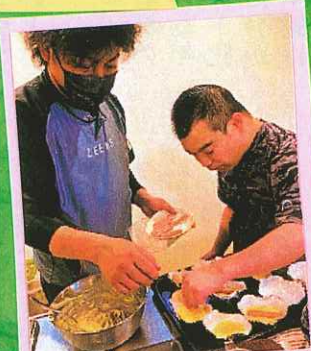


調理

蒸しパン



蒸しパン



焼きアメリカンドック



ひなまつり制作



焼き芋



チョコデコレーション



ランチBOXの
できあがり!



好きな具と選んでおにぎり作り

制作

マグネット作り



風船インテリア

レクリエーション



職員のギター演奏に合わせて



中庭にてランチタイム



散歩

風楽前の梅の木畑にて

勉強会



伝承遊び



季節の花について勉強会

運動



ひなまつり



ひな祭りと一緒に



手作りお面をつけて豆まき

節分

鬼さんと一緒にピース



御立岬公園にて



1月 誕生会

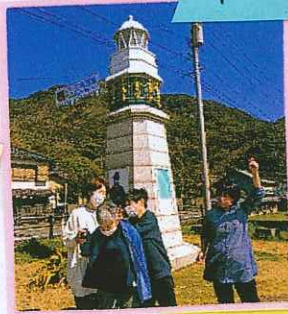


プレゼント披露

ドライブ



岡岳公園へ



三角西港へ

2月



お誕生日おめでとうございます!



栽培



花の苗植え



職員へプレゼント

3月

手をつないで
記念写真

送別会

お花見



満開の桜の下で



退職される清田さんとインジョイ班の皆さん

おんがらう

岡山親一様 下山徹也様 林田靖恵様
吉村匡由様 蛭原メイ子様 園田昇様
福岡信幸様 造道康一様 清田芳浩様
山本留美子様 藤井明子様 高三渚宣英様



たくさんの方々よりお心遣い頂きました。

心より御礼申し上げます。



新任職員



本田 めぐみさん
＜風楽＞



金枝 賢司さん
＜氷川学園入所部＞



小林 晴美さん
＜グループホーム＞



WELCOME!

【金枝さんより皆さんへ一言】

不束者ですが、利用者の皆様に寄り添い一所懸命、支援と勉強をしていきます。よろしく申し上げます。



退職職員



清田 芳浩さん 山本 留美子さん
＜氷川学園通所部＞ ＜グループホーム＞



大変お世話になりました!!

沢山の思い出をありがとうございました(*'ω'*)
また、どこかで会えるのを楽しみにしています♪

行事予定(4月～7月)

4月

1日 開園記念日(41周年)

24日～5月31日 さをり展
日奈久温泉 in 金波楼

5月

3日～5日 GW(ゴールデンウィーク)

毎月開催
利用者自治会 たけのこ会
誕生会

さをり展 開催

(期間) 4月24日～5月31日

(場所) 日奈久温泉 金波楼

必見

素敵な作品を沢山準備
しています♪
お気軽に足をお運び下さい!



編集後記

令和4年度、最初のあゆみ(春号)になります。

今年こそ新型コロナウイルス感染症の流行に歯止めがかかり、ご家族の皆様と利用者様が、一緒に過ごせる時間が少しでも増えていくことを願っています。そんなコロナ禍で、去年行われた東京オリピックや2月の冬季オリンピックで、沢山の勇氣と感動を与えてもらいました。学園でも多くの利用者様がテレビにて、元気に応援されていました。今年度も広報誌では、そんな学園での利用者様の元気な様子を発信していきます。

